

小学校から中学校へと異動となり、最初に担任をした教え子から、連絡がくることがある。この前も、LINE がきた。「〇〇株式会社 新規事業部 部長 □□□□さんインタビュー」とあった。どうやら、インタビュー記事が新聞に載るらしい。

この新規事業部の部長さんが、教え子の一人である。「あれっ」と思った。この教え子は、開業医の家に生まれた。上にお兄さんがいる。家を継ぐことを宿命づけられていたのだろう。高校は、医師になるためのコースがある学校に進んだ。だが、その後、医師になったという話は聞こえてこなかった。獣医を目指すことにしたと聞いたこともあった。さて、どうしたのかと思っていた。

そしたら、新聞にインタビュー記事が載るような新規事業部の部長さんになっていた。人生、何がどうなるか、わからない。彼にとっては、長い“自分探しの旅”だったのかもしれない。現在地に到達するための回り道だったのかもしれない。彼に聞いてみないとわからないが、旅もまわり道も、決して無駄ではなかったはずである。かえって、必要なものだったに違いない。人生に無駄などない。すべてに意味がある。

「持続可能なエネルギーを選んで、もっと『Do well by doing good.』な毎日に！」これが、インタビュー記事の見出しである。記事には、エネルギーの専門家とある。再生可能エネルギーとは別の方法で脱炭素社会の実現を目指す取り組みである「カーボンニュートラル」についての特集である。「カーボンニュートラル」聞いたことはある。だが、よくはわかっていない。

記事を読むと、まさしく専門家として答えている。「カーボンニュートラル」とは、温室効果ガス排出総量のすべてを、他の場所で排出量を削減したり、また吸収させたりすることによって、差し引きゼロにすることを目指す取り組みのことである。この説明だと、壮大な国家レベルの計画のように聞こえる。だが、実は、環境に優しい電力に切り替えたり、収益で森作りを行う商品を応援したりすることで、この取り組みに我々も参加することができるそうである。

記事の最後には、彼の経歴が出ていた。「〇〇開発会社にて経営戦略室長を経験後、2011年から株式会社〇〇にて、～を担当。その後、渉外企画課長として、経産省の制度設計等に関わる委員を歴任。2016年からは VPP 実証事業の企画責任者として、事業立ち上げやアライアンスを担当。現在は〇〇株式会社にて新規事業部長として VPP 事業や、EV を活用したダイナミックプライシング実証等の新規事業開発を総括している。」

よくわからない。さすがは、日本経済新聞である。息子と娘は、この新聞を読んでいる。二人とも、ずいぶんと遠くにいったしまった感がある。彼が、新分野に関わっていること、それが環境のためになること、世の中のために活躍していることはわかる。それに、人の上に立つポジションにいることもわかる。まわりから認められていることもわかる。顔写真があった。自信に満ち溢れてはいるが、嫌味がない。昔と変わらず“いいやつ”である。12月28日には、クラス会が催されることになっている。彼は必ず来る。そういう人である。会えるのが楽しみである。